

資源のみち

施策展開の上の考え方

処理場のエネルギー100%自立

省エネルギー対策と併せ、下水道の有するエネルギーの活用等により従来の化石燃料に依存しないエネルギー100%自立型処理場を目指すことを基本とする

新エネルギー等活用のトップランナー

下水汚泥に加え、厨芥や剪定廃材、家畜排泄物等のバイオマスエネルギーや太陽光・風力発電等の新エネルギーを積極的に活用する、トップランナーとしての取り組みを基本とする

地域へのエネルギー・資源の積極供給

下水道施設で創出される新エネルギー等や資源を、下水処理場が中核となって地域に供給し、地域エネルギーの転換及び安定供給の確保に積極的に貢献することを基本とする

基本方針 資源のみち

自立する
資源のみち

下水道施設が利用するエネルギーの自立率を高める

活かす
資源のみち

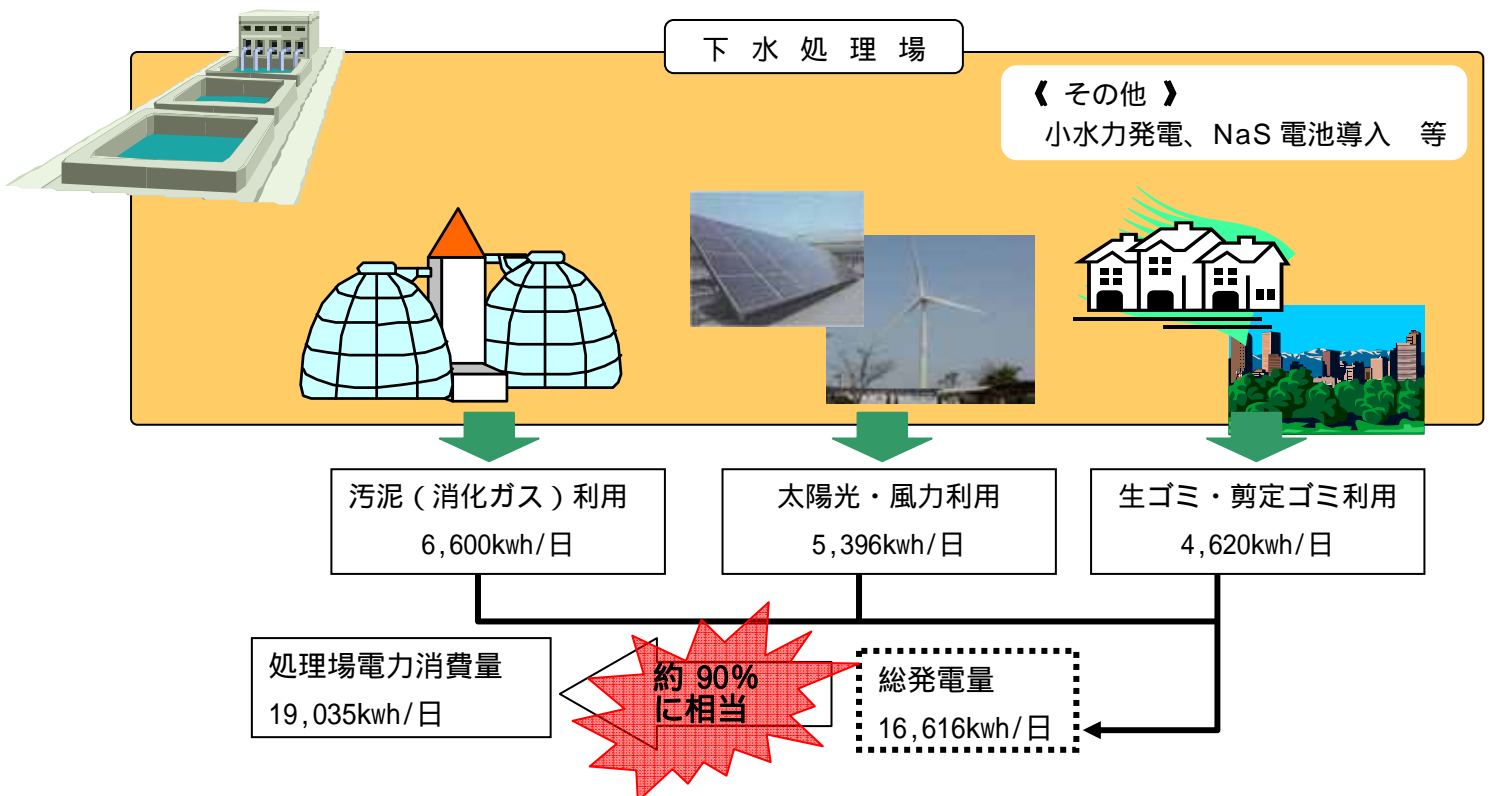
集積する下水汚泥や、空間・立地条件を活用して創出する新たな資源を地域社会に供給する

優しい
資源のみち

新たに創出したエネルギー・資源の活用による地球温暖化の防止等、環境保全に貢献する

処理場のエネルギー100%自立

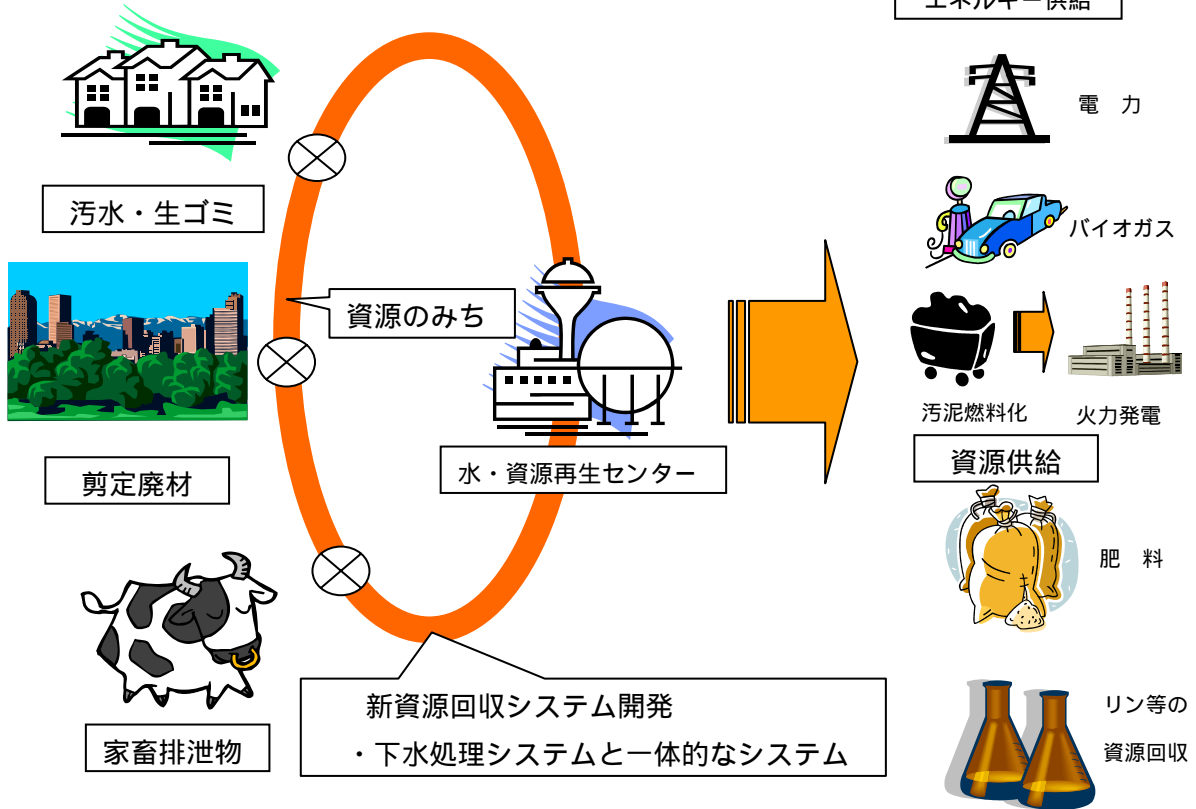
省エネルギー化、バイオマス（汚泥・厨芥・廃材等）・自然エネルギー（太陽光、風力等）をエネルギー源として、100%エネルギー自立を実現



(50,000m³/日規模の処理場での試算)

バイオマス資源回収・活用ネットワークシステム

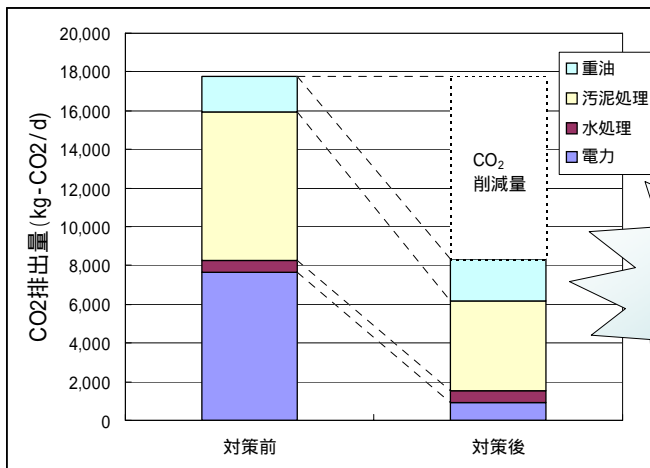
地域に張りめぐらされた下水管によりバイオマス資源を回収し、バイオガス、汚泥燃料、肥料等に資源化して地域に供給



⊗ バイオステーション：
雨水貯留水等を水源とした下水管による円滑な資源回収拠点

地球温暖化防止への下水処理場の貢献

電力削減は超微細気泡装置導入、バイオマス・自然エネルギーの活用で、汚泥処理は高温焼却によりN₂Oの排出抑制により、約53%の排出量の削減を実現



**約53%の
排出量削減**

電力	38%削減
汚泥処理	17%削減
水処理	変化なし
重油	2%増加
計	53%

電力	71.4%
汚泥処理	32.5%
水処理	0%
重油	-3.9%
計	100%